

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

学校名	綾南町立綾南中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	6	1	17	36
生徒数	193	193	218	3	607	

研究の概要

1 研究主題

<p>確かな学力を身につけ、自立しともに高めあう人間性豊かな生徒の育成 分かる授業と豊かな体験を通して</p>
--

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全教科（ただし、少人数授業やＴＴにおける実践は、数学・英語科が中心となる）</p>

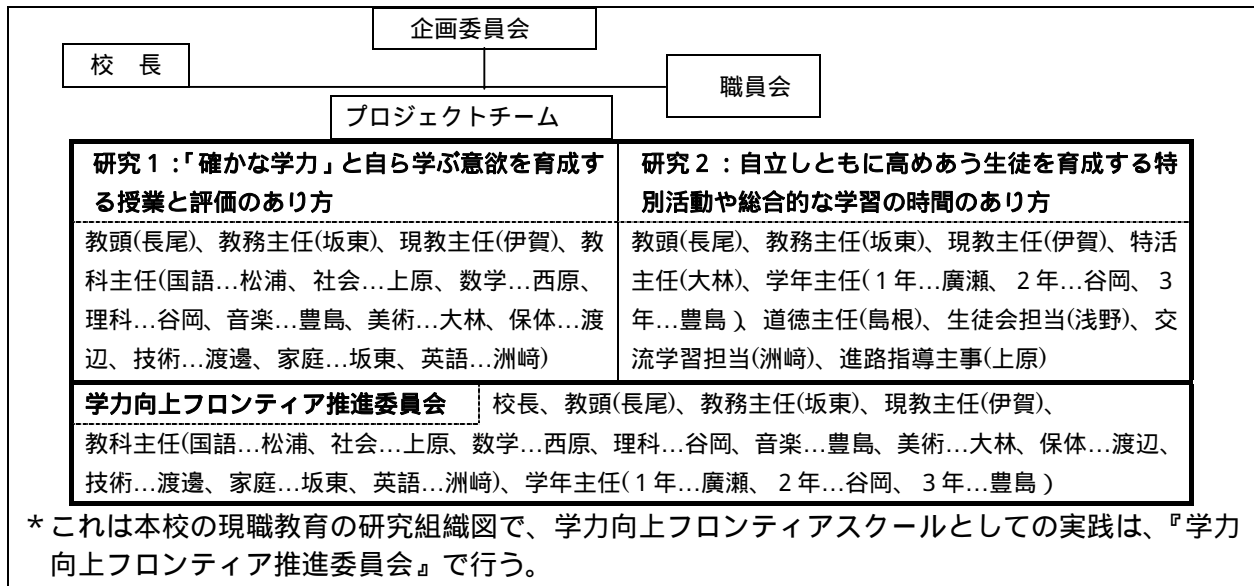
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ 確かな学力を身につけ、自立しともに高めあう人間性豊かな生徒の育成 分かる授業と豊かな体験を通して</p> <p>研究の見通し（仮説） 少人数授業・ＴＴ（数学・英語）や一斉授業（他の教科）における指導方法や評価方法を改善したり、生徒の習熟度や興味・関心に応じた教材開発を進めたりすることで、個に応じた、分かる授業が可能となり、生徒に学ぶ意欲が増し、『確かな学力』が身につく。学力修得の過程で『自立』し、『ともに』高めあう経験を踏ませることで、豊かな人間性を持った生徒が育つ。 特に、初年度は『確かな学力』を身につけさせるために、いかに個に応じた指導を展開するか、に重点を置く。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究主題の分析 各教科で、キーワードである『確かな学力』、『自立』、『ともに』の分析 2 研究計画の作成 3 よく分かり、学ぶ意欲を向上させる評価の在り方についての実践的研究 4 個に応じた指導方法・指導体制についての実践的研究（数学・英語科を中心に指導方法の改善や教材開発を行う）
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 確かな学力を身につけ、自立しともに高めあう人間性豊かな生徒の育成 分かる授業と豊かな体験を通して</p> <p>研究の見通し（仮説） 少人数授業・ＴＴ（数学・英語）や一斉授業（他の教科）における指導方法や評価方法を改善したり、生徒の習熟度や興味・関心に応じた教材開発を進めたりすることで、個に応じた、分かる授業が可能となり、生徒に学ぶ意欲が増し、『確かな学力』が身につく。学力修得の過程で『自立』し、『ともに』高めあう経験を踏ませることで、豊かな人間性を持った生徒が育つ。 2年次は、特に『自立』、『ともに』を意識した実践で、より豊かな人間性の育成に努める。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究主題の再確認
--------------------	--

2	研究計画の作成
3	よく分かり、学ぶ意欲を向上させる評価の在り方についての実践的研究
4	個に応じた指導方法・指導体制についての実践的研究（数学・英語科を中心に指導方法の改善や教材開発を行う）

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果および今後の課題

1 研究成果

(1) 「確かな学力」の分析

「基礎・基本を身につけ、それを活用して各教科で自己実現を図ることのできる力」

* 各教科での具体的な分析は、後述する「教科別研究内容一覧」を参照

(2) よく分かり、学ぶ意欲を向上させる評価の在り方についての実践的研究

評価基準の見直し

それぞれの学習活動（授業への取り組み、提出物や作品、ノートやワークシートなどへの記述、実技テスト、小テスト・定期試験など）の目標に基づき、生徒一人一人について「a」、「b」、「c」、「d」の4段階の評価を行っている。今年度は、「努力はしているが『おおむね満足できると判断される』までは達していない」生徒の学習への意欲をそがないために、「努力をしていないと判断される」生徒と区別した。

評価	目標の達成度	基準
a	十分満足できると判断されるもの	目標の80%以上を達成している
b	おおむね満足できると判断されるもの	目標の40～80%未滿を達成している
c	努力を要すると判断されるもの	目標の40%未滿
d	努力をしていないと判断されるもの	目標の0%

また、学期ごとに評定算出のための観点別評価基準表を作成した。（別添資料「英語科」の研究のまとめを参照）

自己評価・相互評価による自ら学ぶ力の育成

多くの教科で、自己評価や相互評価を積極的に取り入れ、工夫することによって自ら学ぶ力を育成しようとした。（毎時間の学習への取り組みの自己評価、個人目標の設定、制作や交流活動、実技発表などにおける相互評価カードなど）

(3) 個に応じた指導方法・指導体制についての実践的研究

個に応じた効果的な少人数指導の工夫

ア 数学科における実践

2・3年生での少人数授業..... 2クラスを習熟度別に3グループ〔発展・応用1グループ、基礎・基本2グループ〕に分ける少人数授業

(ア) グループの活動内容

コース名	具体的な学習内容と活動
基礎・基本グループ	「教科書＋練習問題」フラッシュカードによる復習、小プリントによる復習、具体的な操作や実験を取り入れた学習、スモールステップ学習、穴埋めのワークシート、学び合い学習（ペア学習） 机間支援時の添削
発展・応用グループ	「教科書＋練習問題＋発展・応用問題」フラッシュカードによる復習、小プリントによる復習、具体的な操作や実験を取り入れた学習、学び合い学習（ペア学習）、思考を深める問題へのチャレンジ、机間支援時の添削

(イ) グループ分けの方法

その題材に関係する事前の小テストを実施し、その結果をもとに希望調査を取り、本人の意思を確認した上でグループを決定する。各章ごとにクラス編成をし、学習の途中でもコース変更を認めている。

イ 英語科における実践

2・3年生での少人数授業……1クラスを習熟度別〔TTによる一斉授業のあと、習熟度や活動内容に応じて2～3コース〕に分ける少人数授業

(ア) コースの活動内容

後期実施コース（2年生）

コース名	具体的な学習内容
基礎これだけはコース	目標文や新出語句・重要表現などについて、ポイントを絞り、部分的な並べかえや和訳を中心にワークシートを使って復習する。
ホップコース	目標文や新出語句・重要表現、文法事項などについて、並べかえや選択問題、簡単な長文問題などを通して復習する。
ステップコース	目標文や新出語句・重要表現、文法事項などについて、並べかえや記述形式、少しレベルの高い長文問題などを通して復習する。

(イ) グループ分けの方法

新文型や本文の学習、簡単なコミュニケーション活動など共通して学ぶべき内容はTTによる一斉授業で指導したあと、生徒自身が自分の理解度やコースの学習内容に応じて選択する。授業の後半、一方のコースが別のクラスに移動することが多い。

定期テスト等における「同一傾向・同一レベル問題」による比較

ア TTによる一斉授業と習熟度別・課題別少人数授業を組み合わせで行っている2年生の英語では、同一傾向・同一レベルの問題を意図的・継続的に出題し、その推移を見た。同一レベルを意図したとはいえ内容的には難しさが増す中で、下がった項目もあったが、「単語のつづりや意味」（言語）については1学期末の平均正答率65.2%から2学期中間では69.8%に、「並べかえによる英作文」（言語）が66.3%から74.2%に、「自由作文」（表現）が60.7%から72.2%へ、「読解」（理解）が36.1%から51.6%にそれぞれ向上した。また、重要表現について並べかえによるテストを9月はじめと1月はじめに行ったところ、9月は58文の中から40問出題で平均正答率が71.3%であったのが、1月には116文の中から60問出題と広範囲になったにもかかわらず77.3%に向上した。

イ 生徒選択の習熟度別少人数授業を行っている2年生の数学では、「錯角・同位角を用いた角度」（表現・処理）が2学期中間の平均正答率85.5%から2学期末では88.2%に、「三角形の内角・外角の性質を用いた角度」（表現・処理）が60.6%から78.8%に、「関数・図形分野の基礎知識」（知識・理解）が80.7%から84.1%にそれぞれ向上した。

生徒の「関心・意欲・態度」についての比較

アンケート結果によると、ほとんどの生徒が一斉授業より少人数授業やTTの方が学習しやすく、分かるようになってきたと感じている。たとえば、数学（3年）では94.1%の生徒が「計算力がついてきた」と実感している。また、英語（2年）では「学習にやりがいを感じている」生徒が増えている（「復習テスト」が1学期末の55.1%から2学期末には64.4%へ、「新文型の学習」が66.3%から78.5%へ、「本文の学習」が66.5%から77.4%へ、「英作文」が51.6%から61.8%へなど）。

保護者への意識調査（H.15.12 実施）の結果

保護者はほとんどの人が少人数授業や IT を行うことに賛成（95.9%）し、学力を高めるのに有効な学習形態だと感じている（93.8%）。また、少人数授業や IT が具体的にどんなものかを知っていた保護者も 4 割おり、関心は高まっている。

2 今後の課題

- (1) 学年が進むにつれ、とくに英語のように積み重ねの教科の場合、生徒個々の学力差が拡大する一方になる。少人数授業や IT の中で基礎・基本の定着を図るために、いかにして個をとらえ、個に対応した指導を進めていくか。
- (2) 年 1 回の学習状況調査以外に、基礎・基本の定着度を測る手段として、校内テストなどで客観性の高い問題の作成をどう進めていくか。
- (3) 学習状況調査以外に、より客観的に興味・関心等情意面の変容を定期的に測る方法をどう開発していくか。
- (4) 家庭での学習習慣が身につくように、いかに保護者に啓発していくか。

3 教科別研究内容一覧(詳細は別添資料参照)

教科	研究テーマ	確かな学力の分析	研究内容	成果()と課題()
国語	豊かな言葉をはぐくむ国語教室 - 伝え合う活動を通して -	対話能力、適切に書き表す力、的確に読み取る力、情報を内容理解や表現に役立てる力	1. 「つけさせたい力の表」の作成 2. 生徒自身が「つけるべき力」を把握し、学習に生かすための手だて	積極的に伝え合い、個々の力が伸長 生徒の自己学習力の育成
社会	自分の考えをもち、主体的に学ぶ生徒の育成	社会科としての基礎・基本が定着し、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力	1. 自己チェックカードによる学習の確認 2. 学習形態の多様化（追体験学習、ロールプレイ、模擬体験学習など） 3. 個に応じた課題選択（自分の能力に合う宿題ワークの選択、自分に興味・関心のある事項についての研究など）	自己チェックカードの定着と自由研究における自主性の発揮 時間配分と個に応じた評価
数学	主体的に学ぶ生徒を育てる少人数学習のあり方 ~ 個に応じた少人数学習のあり方を求めて ~	数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解し、数学的な表現や処理の仕方を習得したり、事象を数理的に考察したり、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用したりする力	1. 基礎・基本を確実に身につけさせるための指導の工夫（授業における効果的な復習の行い方、復習プリントによる反復練習の工夫） 2. 題材に応じた理解度を高めるための授業形態と授業展開の工夫（習熟度別・学習課題別・学習スタイル別などの授業形態の工夫、教材・教具の開発、理解度を高めるためのワークシートの研究、数学的活動を取り入れた授業展開の工夫）	基礎・基本の定着と意欲の向上 個に応じた指導の充実
理科	主体的に自然とかわかり・感じ・調べる理科教育 自然からの気づきを大切に、科学的に調べる能力を育てる理科教育	身近な自然の事物・現象の中から、科学的な見方によって自然を探究し、観察・実験を行い、自然の美しさ、偉大さ、精巧さといったことに知的に感動し、科学的見方や考え方のすばらしさに気づき、自らの力で探究していく力	1. 基礎・基本的な学力を身につけさせる指導法の工夫 2. 課題意識を持たせるための導入実験の工夫 3. 学習効率を高め、興味・関心を高める教材の開発 4. 選択理科における教材の開発 5. 生徒一人一人の個人差に対応した指導法や教材の開発	興味・関心を持って探究していくとする姿勢 指導法の工夫や教材開発の継続的な実践とそのための時間の確保
音楽	互いに高めあい、響きあう音楽活動を求めて 自ら表現しようとする能力や態度を育成す	生活の中に音楽を取り入れることが楽しいと感じる心、そのために必要な技能・知識	1. 意欲を持たせるための工夫 2. 高めあう活動の工夫 3. リーダーと集団づくり	グループ活動や評価カードの有効性 生徒とともに、

	るためには			より高め合い、響き合う音楽活動を創造
美術	一人一人が夢中になって取り組める効果的な指導方法の工夫	・美術に興味・関心を持ち、美しいものを感じ取ることができる ・自分が表現したいものを描いたり、作ったりすることができる	制作に意欲を持って取り組み、美を追求させるための手だて 1. 見通しを持って授業に取り組ませるための制作カードの活用 2. 作品の見方や自己評価力を身につけさせるための評価カードの活用	制作カードや評価カードの有効性 評価カードの中身の充実
保体	運動・身体へのかかわりを創造する保健体育学習～自他の成長をめざし、互いに支え高めあう集団作り～	心身の健康の保持増進（重点：体力の向上） 体の柔軟性・巧みな動き（巧緻性・敏捷性）・力強い動き（筋力・瞬発力）・動きを持続する能力（持久力）を高める	1. 体力の向上をめざした補強運動 2. 個に応じた指導を展開するための具体的な方法 ・ 個人目標の設定 ・ グループ学習の形態 ・ 評価方法	個人目標設定やグループ学習の有効性 1年時の指導のあり方と授業時数削減への対策
技家	進んで生活を工夫し、創造する生徒の育成	衣食住にわたる生活全般において、実践的・体験的な学習を通して、自分に必要な基礎的な知識と技術を実際の生活に生かすことができる態度や能力	1. 実践的・体験的な学習を通して、知識や技術を身につけさせるための工夫 2. 協力する態度やお互いのよさを認め合う心、よりよい生活への工夫ができる「生きる力」の育成を狙ったグループ学習のあり方	生徒の興味・関心の高まりと学習の生活化 個に応じた指導と客観的な観点別評価基準の設定
英語	実践的コミュニケーションにつながる確かな学力の育成 - 自立し、ともに高めあう少人数指導を通して -	基本の語句や表現を理解し、それを使って積極的に自己表現をしたり、相手とコミュニケーションを図ろうとしたりする力	1. 個に応じた指導方法の改善と教材開発 ・ 効果的な少人数授業のあり方の研究 ・ 確かな学力を育成する指導方法の開発 2. 評価方法の改善 よくわかり、学ぶ意欲を向上させる評価のあり方についての研究	基礎・基本の定着と学習意欲の向上 より個に応じた指導の確立、評価問題の工夫と自ら学ぶ力の育成

学力把握のための学校としての取組

- 1 県教育委員会実施による学習状況調査（年1回）
- 2 定期テスト等における同一傾向・同一レベル問題での比較
- 3 学習への取り組み状況を把握するためのアンケート（毎学期）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 研究会、説明会等の開催実績

会の名称	期 日	場 所	対 象	会の目的・内容など
P T A 総会	H.15.4.29	綾南中学校	保護者	学力向上フロンティア事業や少人数授業について説明。
オープンスクール	H.15.5.31	綾南中学校	保護者	授業公開
町一貫性教育研究会校種間交流	H.15.6.5 H.15.6.6	綾南中学校	町内小・中教員（一部）	授業参観と学力向上フロンティア事業の取り組みについて話し合い。
綾歌郡教科研究会	H.15.6.11	綾南中学校他	郡内中学校教員	理科、音楽は本校で研究授業。他は各校で、本校の実践について説明。
学校訪問	H.15.6.12	綾南中学校	県教育委員会義務教育課課長	授業参観と学力向上フロンティア事業の取り組みについて

				説明。
綾歌郡現職教育主任研究会	H.15.6.19	宇多津中学校	郡内各校現職教育主任	学力向上フロンティア事業などについて各校の情報交換。
要請学校指導訪問	H.15.6.20	綾南中学校	町教育委員会 中讃教育事務所	研究授業参観と学力向上フロンティア事業等への取り組みについての説明。
第1回学力向上フロンティアスクール中讃地区協議会	H.15.7.11	仲多度合同庁舎	中讃地区フロンティア ティーチャー他	フロンティアスクール相互の情報交換。
学校評議員会	H.15.7.18	綾南中学校	学校評議員	学力向上フロンティア事業を含む教育実践全体について説明。
英語教員指導力向上研修 (10日間)	H.15.7.28~ H.16.1.27	高松テルサ他	県内中学校英語科教員	英語科の実践について報告、他校と情報交換。
要請学校指導訪問	H.15.10.3	綾上中学校	綾上中学校英語科教員	研究授業参観、指導・助言。
第2回学力向上フロンティアティーチャー研修会	H.15.10.16	県庁	県内学力向上フロンティア ティーチャー他	学力向上フロンティアティーチャーとしての取り組みについての情報交換。
町一貫性教育研究会教育課程部会	H.15.10.27	陶小学校	町内小・中現職教育主任	学力向上フロンティアスクールの英語科の取り組みについて発表、意見交換。
四国国語教育研究大会	H.15.11.7	綾南中学校	四国内国語科教員	国語科の取り組みについて研究授業や提案、意見交換。
学校訪問	H.15.11.10	綾南中学校	香川大学生	数学と保健体育の授業参観と学校の取り組みの説明。
町一貫性教育研究会校種間交流	H.15.11.20	綾南中学校	町内小・中教員(一部)	授業参観と学力向上フロンティア事業の取り組みについて話し合い。
町一貫性教育研究会	H.16.2.4	綾南町農村環境改善センター	町内幼・小・中教員	「学力向上への取り組み」について発表、質疑応答。
第2回学力向上フロンティアスクール中讃地区協議会	H.16.2.27	アイレックス	中讃地区教員等	ポスターセッションによる発表。

2 「平成15年度研究紀要」の作成(H.16.3予定)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	3学級以下 7~9学級 13~15学級	4~6学級 10~12学級 16学級以上
【指導体制】	少人数指導 その他	TTによる指導
【研究教科】	国語 社会 外国語 音楽 保健体育 その他	数学 理科 美術 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無